

あゆみ荘

だより

◆和室の洋室化改修

工事が完了

横浜あゆみ荘では、多くのお客様から、「和室を洋室に」との声をいただいたため、それらの声に応え、二年前に二室の和室を洋室に改修しました。

この度、さらにもう一室の和室を洋室に改修し、今年の六月十五日から、ご利用いただいております。

これで洋室は四部屋となり、より利用しやすくなりました。皆様のお越しを職員一同お待ちしております。



新しい洋室に

◆新型コロナウイルス感染症拡大防止のための対策について

横浜あゆみ荘は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、現在、宿泊者数や利用できる館内施設、各種サービスを制限するなど営業規模を縮小して運営しております。

また、館内の消毒や換気を徹底し、密集を防ぐための各種対策を実施し、お客様には、手洗い、手指消毒、体調確認、検温などのご協力をお願いしております。

今後、感染者が急速に増加するなど状況が変化した場合は、利用内容を変更する可能性もございます。詳しくは横浜あゆみ荘ホームページでご確認をお願いいたします。お客様には大変ご不便をおかけいたしますが、ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

よこはま障害者共同受注総合センター
受注センター わーくる通信

首都圏基板ネットワークでは、不要になったパソコンを回収、分解した部品などを資源として売却することで収入を得ている。所属している就労継続支援B型事業所ぶれいす(中区・以下、ぶれいす)に横浜市社協が回収を依頼した。

◆健康福祉総合センターで作業を実施

横浜市社協で多数のパソコンを廃棄する時に、ぶれいすがこの取り組みを始めたことを聞き、まとめて回収してもらうことになった。

回収時はセキュリティ対策として、事務所のある健康福祉総合センターに向いてもらい、一部破壊する作業を実施した。

◆破壊作業が収入に

解体作業は、今までの経験から工具を増やすなど工夫を重ねてきた。部品組立てなどとは異なり、壊すということが、ストレス発散になる



ハードディスクに傷をつけて破壊

とのこと。メンバーさんは「細かいものが多く、よく見るのに注意が必要で、力がある仕事」と話す。手慣れた様子で手際よく作業を進める。今回は、二日間、計八時間で三百台程のハードディスクを破壊した。

ぶれいす職員、鶴見さんは「この作業で工賃収入も上がり、メンバーのやる気もでた」と話す。

◆首都圏基板ネットワークの取組み

首都圏基板ネットワークには横浜市内の他、神奈川県内の複数の事業所が所属している。分解した資材は大量にまとめて売却することでより多くの収入につながるため、それぞれの事業所で

解体した資材を首都圏基板ネットワークで取りまとめて売却する。

昨年度、事務局を担う露口さん(平塚市・トム)から依頼され、仲間を増やすための体験会実施にわーくるが協力した。その後、横浜市内でも三か所の事業所がこの取り組みに参加することになった。

◆全国から首都圏に

もともとは新潟から取り組みが始まり、その後、関東、東北、関西にも広まって、障害者が同じ作業を行う任意団体として組織された日本基板ネットワーク。その全国大会に参加したトムとぶれいすが、昨年度首都圏基板ネットワークとして取り組みを開始した。

露口さんは「今後のデジタル化社会にもマッチし、地球環境保護にもつながる」と考えて、このネットワークに参加を決めたそう。

普段、首都圏の企業やホテルなどからの不要パソコンの引取り依頼

などに対応しているが、個人からの引取りの希望にも応じている。鶴見さんからは、「不要なパソコンがあれば回収に向くので、処分を考えている方は連絡して欲しい」とのことであった。



手際よくハードディスクを取り外していく

連絡先

【首都圏基板ネットワーク事務局】

特定非営利活動法人トムトム(担当:露口さん)

電話 0463-71-6171

【横浜市内】

就労継続支援B型事業所ぶれいす(担当:鶴見さん)

電話 045-306-6382